

2026合同教育研究全道集会 分科会紹介・研究課題

分科会		紹介	研究課題	分科会運営
1	国語教育	ことばを「情報」として操作するだけ。文学作品も読まない、作文も書かない—最近の流行のこんな授業は国語教育ではない—と怒っているみなさん！本当の意味で生きる糧となる国語教育を、参加者みなでつくりあげてみませんか？（レポートには教材の原文添付を）	(1)国語教育の現状と中心課題 ① 子どもの学力の実態と国語教育の現状 ② 改訂学習指導要領・道徳教育の強制など教科書の問題点と教育課程づくり・自主教材の内容充実 ③ 研究の組織化と日常のとらえ (2)言語教育—小・中・高の関連を明確にして ① 言語の基礎（音声・文字・語彙・文法・漢字漢語教育など）をどう教えるか ② 子どもの言語の学力問題 (3)言語活動教育 ① 読み方教育・文学教育（文学的文章・現代文学・古典文学・説明的文学・評論教材）の内容と指導法 ② 作文・つづり方教育（語文・小論文などを含む） ③ 自主教材の発掘・研究（憲法教育・平和教育・北海道の文学） (4)読み聞かせ・読書活動	◇共同研究者 池田 和彦（深川西高校） 市来 健（乙部小学校） 熊木 啓二（有朋高校） 東谷 一彦（札幌国際大学非常勤講師） 幸坂 健太郎（教育大札幌校） ◇司会者 平川 美和（北海道作文教育協議会） 大澤 信哉（岩見沢西高校） 斎藤 鉄也（弟子屈町立和琴小学校） 戸川 貴之（帯広柏葉高校）
2	外国語教育	「グローバル人材」「コミュニケーション能力」「小学校での教科化」「大学入試改革」。現場を揺るがしているこうした教育政策のキーワードをもとに、真の外国語教育の目的を確かめながら、子どもの明るい未来につながる授業づくりを語り合います。	(1)外国語教育の現状と課題 — 児童生徒の学力の実態・外国語教育の現状と今後をとらえ、実践と研究を明らかにする ① 外国語教育の目的と全体構造を明らかにする ② 学習指導要領の問題点を実践的・理論的に明らかにする ③ 小学校での教科化（「外国語」）の評価を含め、評価方法と課題を明らかにする ④ 小学校での外国語活動の実態と課題を明らかにする (2)外国語教育の内容と方法 ① 言語体系（音声・文字・語彙・文法）の教育内容と方法を明らかにする ② 言語活動（音声コミュニケーションと文字コミュニケーション）の教育内容と方法を明らかにする ③ 取り上げる言語材料の選定・掘り起こしを行い、その指導過程を明らかにする	◇共同研究者 徳長 誠一（旭川西高校） ◇司会者 福士 直尚（苫小牧西高校）
3	社会科教育	本分科会は、社会科・公民科・地歴科教育実践の発表・交流の場です。人権・平和・民主主義の実現を目指し、持続可能な社会の担い手を育てるために、上記の教科・科目を中心に、多様な教育実践をもちよ。共有・維持・発展につめる機会としましょう。	(1)主権者を育てる社会科・地歴科・公民科の授業や教育課程をどのようにつくるか (2)地域・生活感覚につなげる実感をわきおこせる教材をどう開発するか (3)背景となるであろう諸科学・学問・社会問題（特に災害や感染症）をどうつなげるか (4)新学習指導要領の新科目や評価等についてどのように取り組んでいくか 【午前の部】はレポート報告・検討の時間とします。発表者は、レポートを事前に準備し、参加者は目を通しておいください。当日は、一人の口頭報告は原則5分程度とし、参加者との議論に時間を多くとります。 【午後の部】は参加者の関心に合わせてワークショップを中心としたものにします。こういうことで困っている、こんなことをやってみたいのだから、社会にあるみなさんの声をアウトプットする中で自らが気づく、すっきりした、背中を押してもらえた、アイデアが浮かんだ、そんな時間になればと考えます。	◇共同研究者 鈴木 良伸（酪農学園大学） 平井 敦子（北海道歴史協） 前田 輪音（教育大学札幌校） ◇司会者 角谷 悦章（帯広南商業高校） 渋谷 美和子（苫小牧市立啓北中学校）
4	数学教育	「数学は本当におもしろいんだな」という気持ちになる授業をするにはどうしたらよいか」について自由な雰囲気話合い、ちょっとした工夫を持ち寄って、見晴らしのよい数学と数学教育の世界を味わいましょう。	(1)「数学は本当におもしろいんだな」という気持ちにさせるにはどうしたらよいか (2)楽しみながら、数学の世界が見える教材にはどんなものがあるか (3)子どもの学習意欲をもり上げる数学教育とはどんなものがあるか	◇共同研究者 真鍋 和弘（道数協） 成田 收（道数協） 酒井 義信（道数協） ◇司会者 清水 真人（市立札幌大通高校） 但木 功（小樽市奥沢小学校） 平岩 恒逸（札幌市立平岸高校）
5	理科・環境教育	自然科学・技術は、すべての人々に幸福をもたらすべきものです。しかし、環境問題、原発と廃棄物など現実の問題は複雑です。道民が自分の頭で考えて未来を切り開いていくためには、自然科学や環境科学の基礎を豊かに学ぶことのできる教育が必要です。	(1)子どもが楽しみながら自然科学や環境科学の基礎を着実に学ぶことができる授業をどのようにつくるか (2)子どもと教師の意欲を引き出す、わくわく実験やものづくり教材をどのように開発するか (3)「地域の自然」「環境に関わる諸問題」をどのように教材化するか (4)「自然科学教育が育てる学力」「環境科学教育が育てる学力」を身につけることができる教育課程をどのようにつくるか (5)教員・研究者・地域住民の横の連携、ネットワークを深める仕組みをどのようにつくるか	◇共同研究者 大野 栄三（元北海道大学） 堤 智洋（教育大札幌校） 江見 清次郎（元北海道大学） 金澤 裕司（羅臼町教育委員会） ◇司会者 篠原 暁（沼田化石友の会） 岡本 武博（訓子府高校） 三好 敬一（札幌啓成高校）
6	美術教育	美術教育は豊かな人間性を育むと共に、多様な価値観や、創造性を他者と共有し相互に認め合える教科です。学力のあり方が変わろうとしている中、授業や特別活動を通じ、子どもたちとの関わりについて語り合います。	(1) 子どもたちを取り巻く様々な状況・実態を明らかにし、美術教育によって身につけることのできる力をどのように育ててゆか現場の実践を通して研究を深める。 (2) 作品制作や鑑賞を通じ、子どもたちが主体的に自己の感性を高め、達成感や心からの感動を味わうことのできる授業や教材などを研究する。	◇共同研究者 上野 秀実（釧路江南高校） 十河 幸喜（江差高校）
7	書写・書教育	小学生の毛筆指導から高校生の作品展示まで、幅広い参加者ニーズに応える分科会を目指しています。	(1)正しく美しい文字を書きたい、思いや感情を込めた文字表現をしたい、自己の存在を何らかの形で確かめたいという子どもたちへの指導・援助のあり方を探る (2)「生きる力」や「自己肯定感」について、子どもたちの作品を通じて考える (3)子どもたちをとりまく今日の社会や教育の現状を検討し、子どもたちの「育ち」にとって、書教育がもつ可能性について検討する	◇共同研究者 磯角 広一（苫小牧西高校） ◇司会者 中谷 幸代（砂川高校）
8	音楽教育	音楽は、人が豊かに生きていくために欠かせない文化です。音楽の授業は、子どもと教師が教材を真ん中にして文化を育む場です。ささやかでも、音段階の実践を持ち寄り、語り、歌い、学び合います。授業等で録音・録画した物を持ち寄ります。	(1)音楽教育の問題点とその解決の方向性を明らかにする (2)生きた音楽の授業はどうしたらよくなるのか そのための教材、子どもの見方、目標の設定と評価、授業方法を実践的に解明していく (3)主体的な全校音楽文化活動のあり方とその実践づくり (4)子どもの成長発達に即した音楽教育の展望を明らかにする	◇共同研究者 石渡 満（標茶町立公立中学校） 渡辺 健（札幌市立新栄小学校） ◇司会者 山口 政世（釧路市立鳥取小学校） 富田 暁美（東川町立東川第三小学校）
9	技術・職業と進路指導	各教科・科目の専門性を活かし、地域と連携した多くの実践や、進路指導、労働問題などの実践を積み上げてきました。身近な問題などを中心に数多くの実践を持ち帰り、学び合います。	(1) 技術・職業教育をめぐる状況 ① 生徒をとりまく状況（学習・生活・進路） ② 教育条件の整備と北海道の教育政策 ③ 学校間連携・地域との連携 ④ 技術・職業教育とキャリア教育 ⑤ 技術・職業教育と進路指導 (2) 教育実践と学校づくり ① 中学校の教育実践（技術科） ② 高等学校の実践教育（専門学科・総合学科・普通科） ③ 職業教育・職業訓練と学力保障	◇共同研究者 上原 慎一（北海道大学） 倉部 静雄（岩見沢緑陵高校） 佐々木 貴文（北海道大学） ◇司会者 内糸 俊男（厚沢部中学校） 工藤 英太郎（釧路商業高校） 清水 正貴（滝川工業高校） 樋上 諭（旭川工業高校）
10	家庭科教育	生命と生活の再生産にかかわる学習を担う家庭科は、子どもが直面する生活の困難にどのように向き、何を提起していくべきなのだろうか。現在と将来にわたる生活の主人公を育てるため、大いに意見交換しましょう。	(1)総合的に学ぶ家庭科で子どもが主体となる学びをどうつくるか ① 子どもの生活の現状をどうとらえるか ② 小・中・高の現状はどうなっているか ③ 家庭科における子ども主体の学びをどうつくるか (2)これからの家庭科教育 ① 学習指導要領・教科書と家庭科 ② 家庭科教育に関わる条件整備	◇共同研究者 石川 幸孝（日高高校） 岩佐 美和子（新十津川農業） 増淵 哲子（教育大札幌校） ◇司会者 福岡 あゆみ（鶴川高校）

分科会		紹介	研究課題	分科会運営
11	保健・体育教育	子どもの健康・発達を語り合い、いかに子どもの命や身体を守り育てていくのか交流しましょう。また、すべての子どもに、食・健康・運動・文化の主人公として相応しい力を保障する教育を考えましょう。学校保健の現状と実践的課題を意見交換しましょう。	《保健体育分科会》 (1)教育課程の編成と改善・充実 (2)保健体育の授業研究、実践交流と今後の課題 ① 体育の授業実践の交流 ② 誰でもできる授業の交流 (3)部活動・少年団・体育的行事の実践交流 《学校保健分科会》 (1)学校保健の実践的課題 ①子どもの健康・発達を保障する健康診断をどう創造していくのか。 ②健康認識をどう育てるか ③様々な発達課題に向き合う子ども・青年の自立をどう援助するか ④自主的な保健委員会活動をどう育てるか ⑤民主的な学校保健づくりと地域・保護者との連携 (2)学校保健の現状と課題 ①子どもの健康・発達の実態とその課題 ②健康診断、予防接種、スクールカウンセラー、特別支援教育のあり方、不登校・いじめ問題をめぐる状況の交流 ③保健指導(性教育を含む)の実践交流 ④学校保健をめぐる教育条件と養護教諭の権利問題の現状と課題 ⑤全校配置・複数配置運動前進のための取り組み	◇共同研究者 白山 尚(奥尻町立奥尻中学校) 中村 文恵(旭川市立愛宕東小学校) 高松 葉子(旭川商業高校) ◇司会者 五十嵐 淳一(学校体育研究同志会) 中道 真由美(石狩翔陽高校)
12	総合学習・生活科	「何を学ぶか」「なぜ学ぶのか」という視点からの授業づくりが、総合学習・生活科の実践を豊かにしていく報告が近年増えています。「深い学び」を実現する生活・総合実践について語り合しましょう。	(1)「総合」の授業づくりにおけるアプローチとその成果についての検討 ① 学習者の要求(学びたいこと)と教師の要求(学ばせたいこと)の統一にどうとくんだのか ② 目標設定における知識・技能・情意の統一にどうとくんだのか ③ 子どもにどのような力がついたのか、その検証はどのように行いうるのか (2)「生活」の授業づくりにおけるアプローチとその成果についての検討 － 特に体験によって学ばれたことを、具体的に子どもの学習の成果から厳密に検証を図る (3)総合・生活科と、学校づくりや教育課程との関係の在り方を探る (4)私たちが、総合・生活科でつきたい「学力」とは何か ①地域の学力とは何か ②誰の、何のための学力か	◇共同研究者 前田 賢次(教育大札幌校) 村越 含博(文教大学) 山口アナン真美(教育大札幌校) ◇司会者 山本 民(利尻町畜形小学校)
13	道徳教育	特別の教科「道徳」が小学校で始まり8年目。他教科や学校行事と照らし合わせ、できるだけ子どもたちの実態に合うように意識して授業が行われている学校もあれば、計画に則り肅々と授業を進める学校もあります。子どもたちのための道徳を一緒に考えましょう。	「子どもたちの実態・背景を踏まえた道徳の授業づくりの探求」 (1)はじめに 共同研究者から、分科会の経過、今年の課題、主な論点などについて基調提案を受けます。 そのあと、参加者の地域・学校での状況を交流します。 (2)道徳教育実践の交流 ①「道徳科」「公共」の授業実践の発表と交流 i 小学校 ii 中学校 iii 高校 iv その他 ②合科・横断的・全面主義としての道徳教育実践の発表と交流 (3)道徳教育の全体計画や「道徳科」「公共」の年間指導計画などに関わる発表と交流 ①子どもの姿と道徳教育の諸計画づくり・実践づくり・運営体制などについて ②「道徳科」「公共」をめぐる校内外研究のとりくみと課題 (4)その他、道徳教育に関わる参加者の意見交流	◇共同研究者 谷口 知弘 ◇司会者 遠藤 玄(宗谷教組) 大竹 宏周
14	学校と家庭の生活指導	子どもたちの声を聞き、子どもたちを大切にする学級づくり、授業づくりなどの実践を交流します。学校を息苦しくさせるゼロトレランス、学校スタンダードなどの一斉指導、拡がる格差と貧困、いま、必要な生活指導、子ども支援は何かを討論します。	(1)北海道の各地域に見られる子どもの生活状況 ① 子どもと家庭の「貧困」状況と子どもの発達について考える ② 学力テスト体制のもとでの「学力」向上政策、管理を徹底するゼロトレランスによって子どもたちの発達はどうなっているのかを考える (2)安心できる居場所づくりと自信を生み出す活動 ① 「学校」「教室」に安心できる居場所をどのようにつくり出したのか ② 子どもたちそれぞれの発達要求にもついていた自信を生み出す活動をどのようにつくり出したのか (3)子どもの現実と響き合う自治活動 ① クラスづくりや学校づくりの中で、子どもの自治活動をどのようにつくり出したのか ② 「遊び」や「学び」を通して、平和的で共感的な世界をどのようにつくり出したのか (4)子どもをまんなかにおいた共同づくり ① 子育て・教育の悩みを語り合う共同、子どもの発達を支援するネットワークをどのようにつくるか ② 地域に求められる学校づくりをどのようにすすめるか	◇共同研究者 黒谷 和志(教育大旭川校) 瓜屋 謙(道徳教) 橋本 尚典(全生研北海道支部) 井上 大樹(札幌学院大学) ◇司会者 石森 由香利(小樽桜陽高校) 佐藤 理河(旭川永嶺高校)
15	教育条件確立の運動	ゆきとどいた教育の実現には、「人・物・予算」の裏付け、すなわち教育条件整備が不可欠です。教育予算や教育費負担、学校統廃合、教職員定数増と労働条件改善など、切実な課題について学び、語り合しましょう。	(1)国と地方、地方自治体の教育予算の問題点と子ども・教育への影響 ① 義務教育費国庫負担金や就学援助費の削減、学校統廃合・学校現業職「委託化」・「道立学校支援室」設置とその影響、私学助成 の抑制と実態など ② 「貧困と格差」拡大が子ども・教育に及ぼす影響、「高校就学支援金制度」問題、給食費・教材費などの学校徴収金の実態など (2)教育費無償化、ゆきとどいた教育を求める運動の進め方 ① 少人数学級の実現、教職員定数増と労働条件の改善 ② 子どもの学習権と地域の教育を守る運動 ③ 子ども・青年の修学保障、私学助成の拡充など教育予算充実の運動	◇共同研究者 栗野 正紀(教育大学札幌校) 横山 傑(苫小牧工業高校) ◇司会者 菅野 喜文(岩見沢市立美園小学校)
16	教育課程・学校づくり	子どもを中心とした教育課程を、教職員・子ども・保護者・地域が力をあわせてつくっていくために、お互いの実践や思いを交流しましょう。また、様々な課題をかかえる子ども達の実態や育課程についても、じっくり語り合しましょう。	(1)子どもの人格形成を保障する教育課程・学校づくりの課題 ①確かな学力と発達を保障する授業 ②子どもの自治能力を育むHRR活動・生徒会活動 ③憲法・子どもの権利条約にもとづき、子どもの人格形成を保障する教育課程 (2)子ども・保護者・教職員・地域による共同の教育課程・学校づくりの課題 ①教育の自由や教職員の同僚性を回復するために、学校の閉塞感、教職員の多忙化や苦悩をどう跳ね返していくか ②保護者・地域の参加による共同の教育課程・学校づくりのシステムをどうつくっていくか	◇共同研究者 内藤 修司 相木 康展 ◇司会者 米家 直子(幕別清陵高校) 渡楽 和夫(北見北斗高校)
17	地域づくりと子育て・教育・文化・スポーツ	現代社会にみる生活・学力格差、貧困・差別等の社会問題を解決することは、学校だけ、家庭の中だけでは困難です。「子どもの生きづらさ」に正面から向き合う子育て・教育・文化・スポーツと子どもが育つ地域づくり、それとともに大人の学びを考えあいます。	(1)学校・家庭・地域の新たな動きと子育て・教育 ① 新自由主義に基づく教育体制の再編と学校・家庭・地域の課題(先生と親・保護者の連帯活動) ② 子どもの生きづらさの実態把握と地域協同活動(学習支援、子ども食堂など) ③ 地域の居場所活動と子育て仲間づくり(地域子育てネットワークの拡充) ④ 子どもが育つ地域づくり(地域の教育力向上へ) (2)文化・スポーツ活動をすべての子どもたちに ① 子どもの人格形成を保障する文化・スポーツ活動の充実課題 ② 学校教育課程と文化・スポーツ活動を検証する ③ すべての子どもが享受する文化・スポーツ活動を創造する ④ 子ども、親・保護者、地域住民が楽しく参加する文化・スポーツ活動の取り組み	◇共同研究者 大塚 祐二(名寄市立大学) 河野 和枝(さっぽろ子育てネットワーク) 櫻井 幹二(高校教育研究所) ◇司会者 佐々木 一矢(元小学校教員) 沢村 紀子(さっぽろ子育てネットワーク)

分科会		紹介	研究課題	分科会運営
19	国民のための 大学づくり	政府は「高大接続改革」「高等教育無償化」により、高校教育・大学入試、そして大学のあり方を劇的に変えようとしています。統制・競争・分断の政策を乗り越え、自由な学問と青年期の発達保障のあるべき姿を探ります。	(1) 政府の大学に対する統制・再編政策、高大接続と大学改革の動向、それらが教育に及ぼす影響を明らかにする ① 高校生の学力と高校教育の変化、大学教育への影響 ② 大学入試制度改革の動向（新共通テスト・英語民間試験の利用・個別試験の改革・調査書利用の拡大・受験産業の影響） ③ グローバル企業の要求と経済政策への従属を強める大学政策の動向（「グローバル人材」「専門職大学」「文系廃止」） ④ 目標・評価と経営改革を通じた統制（「ガバナンス改革」）は、教育・研究の現場に何をもたらしているか ⑤ 大学統廃合（法人統合、研究・教育組織再編）の動向と問題点 ⑥ 教員養成・研修政策（教員養成・資格制度、免許更新制、教職大学院）の動向と問題点を解明する (2) 国民のための大学創造のとり組み、実践的課題 ① 科学者と大学の社会的責任—研究不正、東日本大震災・福島第一原発事故の教訓 ② 誰もが学ぶことのできる高等教育の創造（無償高等教育の実現、公費支出の拡充、生涯教育との連携） ③ 望ましい「高大接続」のあり方の探究（大学との関係を視野に入れた高校の学習・進路指導、高大連携） ④ 学生・教職員協働による研究・教育の創造 ⑤ 学生の進路と社会的権利の保障（コロナ危機における学生支援） ⑥ 教職員の賃金、健康、労働条件を守るとり組み	◇共同研究者 姉崎 洋一（北海道大学名誉教授） 片山 一義（札幌学院大学） 木戸 正宏（教育大駒校） 光本 滋（北海道大学） ◇司会者 中川 大（教育大札幌校）
20	障害児・障害者の 教育と福祉	小中学校、特別支援学校、高等学校、学齢期後（卒業後あるいは青年期から高齢期まで家族を含んだ）実践・課題を各生活年齢や発達段階のつながりを考えてレポート討論を行います。本分科会の課題は多岐にわたりますが、近年話題となっている「不適切な指導」の根本には、人権意識が希薄になっているのではないかという問題意識もあります。こうした視点も含めて各レポートを総合的に討議できる分散会を構成し、各分散会で討議された成果や課題については全体会で共有し、研究課題を深めていきます。	(1) 小中学校における特別支援教育の実践と課題 ① 通常学級における特別な支援や配慮の必要な子供の教育と課題 ② 通級指導教室の教育の現状と課題 ③ 特別支援学級における交流及び共同学習と通常の学級における特別支援教育（インクルーシブな授業）。 特別支援教育とインクルーシブ教育。 ④ 障がい児学級の教育の現状と課題 (2) 障害児学校における教育実践と課題 ① 基本的人権の尊重に基づいた保育・教育・福祉の現状と課題 ② 乳幼児から学齢期における相談・保育・福祉の現状と課題 ③ 訪問教育、医療的ケア、重症心身障害児の教育の現状と課題 ④ 各障害種別における教育の現状と課題 ⑤ 重複障害児の教育の現状と課題 ⑥ 寄宿舎教育の役割と教育実践 (3) 青年期から高齢期までにおける特別な支援や配慮の必要な人の教育及び就労・社会参加、生活に関わる課題。 ① 高等部の在り方～入学希望者の多様化と入学選考の在り方、入学後の課題 ② 高等部の教育実践、進路保障、専攻科の課題 ③ 通常高等学校における特別な支援や配慮の必要な人の教育の現状と課題 ④ 障害者総合支援法の問題点と労働、発達を考えた生活保障の問題 ⑤ 卒業後の新たな取り組みの実践と課題 ⑥ 高齢期における課題の整理（家族の問題、生活の質の変化） (4) 共通課題 ① 教育計画と教育評価の諸問題 ② 特別支援学校の教室不足など障害児教育の教育条件に関わる諸問題 ③ 子どもの発達・ねがいに応じた教育実践 ④ 障害児教育におけるICT機器利用促進施策の現状と課題	◇共同研究者 加藤 法子 戸田 竜也（教育大駒校） 田中 雅子（教育大駒校） 二 通 諭 渡邊 博（札幌学院大学） 北村 典幸（旭川市立大学） 武藤 友紀（札幌学院大学） 大橋 伸和（ピアサポーター） 小澤 昌人（チャレンジキャンパスさっぽろ） ◇司会者 市橋 博子（余市養護学校） 藤田 明宏（育成会） 武藤 素子（手稲養護学校三角山分校） 村井 文（苫小牧支援学校） 遠藤 美由樹（北増小学校） 他
22	平和・憲法、 人権・民族と教育	戦後80年を経過し、戦争体験・被爆体験が過去のものになる今、平和の尊と、平和を実現するための憲法存在意義などを如何に次世代に引き継ぐのか。積み重ねてきた理論だけでなく、新しいとり組み・実践を交流しましょう。 ※（人権・民族と教育）の分散会は、休止します。	《平和・憲法と教育》分散会 ① これまでの「戦争のできる国作り」とこれからの「改憲」への動きに対して私たちの理論立てをどう進めているのか。 ② 戦後74年を終えて、日本の「文化としての平和」をどのように継続していくか。 《人権・民族と教育》分散会 (1) アイヌ民族その他の民族的少数者が日本社会の中で直面している課題を明らかにし、その克服のすじみちを考えます。 (2) アイヌ民族その他の民族的少数者の歴史と現状にかかわる課題を、教育実践としてどう取りあげたか、その成果を交流します。 (3) 国際社会や国内情勢の中で、少数者であるために、差別・無視・排除など様々な「人権」侵害に遭遇している人々の例について理解を深め、「人権」感覚の深化と、つながり合う行動への契機を探ります。	◇共同研究者 清末 愛砂（室蘭工業大学） 神保 大地（自由法曹団） 本庄 十喜（教育大札幌校） 阿知良 洋平（室蘭工業大学） ◇司会者 野上 徹哉（江別高校）
23	子ども・青年の 発達と教育	子どもや青年の「発達援助」に携わる大人として、何ができるかを共に考え語り合う分科会です。保育、小・中学校、高等学校、フリースクールなど、乳幼児期から青年期までの長いスパンで「人の発達」を見直し、子ども理解をより豊かなものにしていきましょう。	(1) 今、子ども・青年が生きている場（地域・家庭・学校など）はどうなっているか。 ① 子ども・青年の文章などから、「声」を聴きとり、実態をつかむ。 ② 多様な発達援助職（保育士、小学校・中学校・高等学校教員、特別支援学校教員、フリースクール指導員、専門学校教員など）の実感から学び、交流しあう。 (2) 子ども・青年の発達を支え、援助するとはどういうことか。 実践報告に学び、共有・分析し、発達援助のあり方を総合的に検討する。 (3) 子ども・青年の発達援助に関わる人々の困難と希望について話し合う。 学校教育だけではなく、幅広い発達援助職に携わる方々との対話を通して、連携と協働のあり方を探る。 * 乳幼児期から青年期までの長いスパンで、子ども・青年の発達をとらえ、考えることのできる、この分科会の価値や独自性を尊重し充実した議論をしていきたい。	◇共同研究者 池田 考司（札幌学院大学） ◇司会者 中里 明雄（洞爺湖町立虹田小学校） 吉田 圭子（札幌市立栄町中学校）
24	不登校・高校中退・ ひきこもり	不登校の子どもは11年連続で増え続けています（2024年文科省調査）。生活に困窮する世帯も増えていて、今まで以上に不登校の子どもやひきこもりの青年が安心して成長できる居場所が求められます。教育行政の不登校に対する態度を検討し、学校のみならず親の会、支援団体の取り組みを語り合しましょう。	(1) 学校に行くことが出来ない子どもや青年の現状 ① 教育現場、教育課程の管理的押しつけ、ITC教育の問題 ② 生活困窮家庭の子どもと親の「困難性」 ③ 「教育機会確保法」「子ども・若者育成支援推進法」の理解 (2) フリースクール等の居場所と支援・援助の現状について ① 不登校・登校拒否全国連絡会から、コロナ禍での支援の現状 ② 全道フリースクール支援団体の取り組みの変化 ③ 特別支援学校、義務制特別支援教室等の子どもと親の困難 (3) 青年期以降の支援や新たな課題 ① 引きこもり者へのアウトリーチと、就労・公的福祉支援の展望 ② 引きこもり者支援の長期化等の諸問題	◇共同研究者 田中 敦（NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク） 門前 真理子（不登校の子どもをもつ親の会トボス） 山田 大樹（NPO法人 訪問と居場所 漂流教室） ◇司会者 上田 瑞穂（不登校支援ネットワーク からふ） 小池 幸晴（共育の森学園 小樽明峰高校） 新保 敦（元高校教員）